

第5章 丸岡城城山の現状と課題

第4章で整理した丸岡城跡の文化財的価値およびその他の価値を踏まえ、丸岡城城山の現状と課題を保存、活用、整備、管理・運営に分けて整理する。

なお、丸岡城天守の現状と課題、課題に対する方針、方針に基づいた計画はすでに保存活用計画で整理されているため、本章以降は天守に直接関係することは割愛する。

5. 1 保存の現状と課題

丸岡城城山における保存の現状と課題を下表のとおり整理する。

表 5-1. 保存の現状と課題

項目	現 状	課 題
遺構保存	・当時の建造物は天守のみが残存している。 ・城山は削平を免れており、本丸を構成していた曲輪地形や、近世に遡ると考えられる石垣が散見される。 ・城郭遺構のうち、石垣については分布調査が実施されている。 ・本丸においては部分的に発掘調査を実施し、遺構の残存状況等を把握しているが、城山全体で見た場合、調査範囲は限定的である。 ・遺構保存に向けた整備は実施されていない。	・曲輪、石垣等の城郭遺構について、現況を含む経年変化状況や変化要因の確認把握を行う必要がある。 ・城郭遺構の石垣については、カルテ等の作成までは至っておらず、現状の把握に向けて更なる対応が必要である。 ・城山の整備に向けて、必要に応じた調査を進めていく必要がある。 ・城郭遺構について、各種調査の成果を踏まえて、顕在化させるなど、その価値を可視化していく必要がある。
公園との共存	・城山を含める形で霞ヶ城公園として都市公園登録がなされている。 ・これまで、公園としての整備が行われてきたが、遺構保全を考慮して整備は行われていない。 ・植栽や園路、管理事務所、トイレ、ベンチ等の公園施設が整備されているが、それらの現状については十分な把握、管理がなされていない。 ・多くの法面は護岸整備されているが、石垣が残っているところや自然傾斜地が残っているエリアもあり、落石が発生している箇所も確認されている。	・遺構保全を前提としてバリアフリー対応を含め公園整備の調整を図る必要がある。 ・各種植栽や公園施設について、管理台帳を整理して適切な管理に努める必要がある。 ・個々の法面について対応優先順位を整理し、遺構保全を前提とした適切な工法の検討と危険箇所から優先的な対応が必要である。
防火・防災・防犯	・天守では防火対策や避難誘導計画が整備され、管理事務所から防犯カメラでの監視が行われているが、天守以外の建造物については、防火・防犯の対策が取られていない。 ・天守の防犯カメラによる監視は日中のみである一方で、城山には夜間であっても自由に出入りできる状況にあり、夜間の防犯は不十分である。 ・城山の防災対策は十分とは言えず、来場者を対象とした避難誘導も想定されていない。	・天守以外の建造物についても防火・防犯対策を検討する必要がある。 ・城山全体として、夜間の防犯対策が不十分であるため、ゾーニングによる夜間の立入制限も含め、対策を検討する必要がある。 ・城山全体として、地震や台風、豪雨、豪雪といった自然災害に際して、来場者が安全に避難できるルート整備や避難誘導について検討する必要がある。

項目	現 状	課 題
調査・研究	これまでの調査成果は、以下の報告書にまとめられている。 「丸岡城天守学術調査報告書」2019年 「丸岡城跡」2021年 「丸岡城学術調査資料集」1～3 また、絵図については、以下の文献に整理されている。 「越前丸岡城の門遺構調査報告書」2019年 若越建築文化研究所	城山を含む丸岡城の文化財的調査は、まだ端緒についたところであり、文献や絵図を含む総合的な調査が必要である。

5. 2 活用の現状と課題

丸岡城城山における保存の現状と課題を下表のとおり整理する。

表 5-2. 活用の現状と課題

項目	現 状	課 題
公園との共存	- 城山を含む霞ヶ城公園では、天守のみ入場料金の徴収を行い、敷地内は都市公園として常時無料で解放されており、地域の方々の散歩や休憩の場として活用されている。 - 都市公園として活用されてきた歴史の中で、登城路とは異なるレイアウトの公園園路が整備され、公園利用を前提とした街灯やベンチ等が配置されている。 - 公園整備の中で、多彩な樹木が植栽されている。特にサクラは積極的に植栽され、桜の名所として親しまれているが、高齢化が進んでいる。また、一部の樹木は、城山と市街地の双方からの眺望を阻害している。	- 丸岡城跡の文化財的価値の保存や顕在化に留意しながら、公園としての機能を維持する整備を進めていく必要がある。 - バリアフリーの観点から城山の活用検討を進める必要がある。 - 城郭としての往時の姿を踏まえた、目指すべき景観を明確にする必要性がある。 - 植栽計画とそれに沿った植栽管理を進めるなど、目指すべき景観の実現に向けた適切な植栽管理を計画的に進める必要がある。
周辺市街地連携	丸岡城城山を取り巻く市街地には、往時の城郭構造の痕跡が点在しており、解説サインが整備されているが、城山と周辺市街地を一体的に周遊できるような周遊ルートや案内サインの整備は不十分である。	周辺市街地に残る往時の城郭構造の痕跡を城山と一体的に周遊できるような周遊ルート設定や案内サインの整備が必要である。
広域での連携	より広域での連携としては丸岡城や本多家と関わりのある文化財が挙げられる。豊原寺跡等の史跡や本光院等の縁ある寺社等が坂井市内の各所に所在しており、これらの関連文化財は丸岡城下町マップやきゃっチャリ等で紹介され、徒歩や自転車等での周遊ルートが提案されているが、有形/無形文化財等については、言及がなされていない等情報が不十分である。	- 広域での連携対象に有形文化財を収蔵展示している資料館等を組み込んでいくことを検討するなど、情報の更なる充実を図っていくことが必要である。 - 無形文化財等を広域連携に組み込んでいくことを検討する必要がある。

項目	現 状	課 題
その他の活用	- 丸岡城城山を利活用したイベントとしては春の桜まつり、秋の古城まつりがある。 - 夜間にはプロジェクションマッピングやライトアップが実施され、夜間来場者が増加傾向にある。 - 天守閉館後の本丸広場における屋外レストランといった活用が行われている他、現代アート展示（北陸三県高校生現代アートビエンナーレ）が行われている。（敷地を占用する活用にあたっては、都市計画課に占用許可をとって実施されている。）	- 城山の公開以外の活用については、明確なルールが定められておらず、活用の際に条件等を整理し、ユニークメニューを含めて広く利活用を促せるようなマニュアル等を作成する必要がある。 - 様々な利活用についての問い合わせ窓口を一本化するという活用者が利用しやすい管理体制についても工夫が必要である。

5. 3 整備の現状と課題

丸岡城城山における整備の現状と課題を下表のとおり整理する。

表 5-3. 整備の現状と課題

項目	現 状	課 題
便 益 施 設	- 都市公園として整備された園路や石積擁壁等について、園路の不陸や石積からの石の脱落や孕み出しといった不具合が確認されている。 - バリアフリー対応はなされていない。	- 公園施設において、危険個所の割り出しとその対策、安全情報を来訪者に提示するといった対応によって来訪者の安全性を担保していく必要がある。 - 具体的にバリアフリー対応手法を検討する必要がある。

5. 4 管理・運営の現状と課題

丸岡城城山における管理・運営の現状と課題を下表のとおり整理する。

表 5-4. 管理・運営の現状と課題

項目	現 状	課 題
管 理 体 制	丸岡城城山の管理は市教育委員会文化課が主体となっているが、日常管理は指定管理者である公益財団法人丸岡文化財団が、都市公園としての施設管理は市建設部都市計画課が対応する等複数の組織が連携しながら担っている。	関係各課等との適切な役割分担のもと、業務を所管する部署を明確にする必要がある。
管 理 事 務 所	指定管理者の管理拠点であり、本丸と松ノ丸の境に建つ建築物を利用している。管理事務所、天守入場券の販売所および会議室、茶室として利用されているが、天守への眺望を阻害しているとして撤去が検討されている。	管理事務所の在り方については、公開と管理といった運用面の課題と併せて検討する必要がある。

表 5-5. 保存管理体制（令和 6（2024）年 3 月現在）

業務分担	担当部署
日常管理全般	坂井市教育委員会文化課
来訪者対応	【指定管理者】公益財団法人丸岡文化財団
文化財保護関連	坂井市教育委員会文化課
都市公園関連	坂井市建設部都市計画課
調査研究	坂井市教育委員会丸岡城国宝化推進室
公開活用	坂井市産業政策部観光交流課 坂井市教育委員会文化課